３．芸術地域デザイン学部

（１）芸術地域デザイン学部の教育目的と特徴　・・・・　３−２

（２）「教育の水準」の分析　　・・・・・・・・・・・・　３−３

分析項目Ⅰ　教育活動の状況　・・・・・・・・・　３−３

分析項目Ⅱ　教育成果の状況　・・・・・・・・・　３-17

【参考】データ分析集　指標一覧　・・・・・・・　３-19

（１） 芸術地域デザイン学部の教育目的と特徴

2016 年４月に新規設置された芸術地域デザイン学部の目的は、芸術創造（表現）のための知識や技能を教え、地域創生に貢献する人材の養成を行うのみならず、芸術を総合的にマネジメントし、プロデュースすることができる人材、そして芸術の手法によって地域創生に貢献できる人材の養成を行うことである。そのため、カリキュラムには、「地域指向型、実践型」の科目を学部共通科目やコース必修科目等として配置している。さらに、協調性やコミュニケーション能力を培うために、コースや分野の別なく学生が参加する「協働型授業・クロス型授業」を学部共通科目に取り入れていることも本学部のカリキュラムの大きな特長である。

本学部設置の背景には、前身の教育学部から数えると半世紀以上にも及ぶ文化教育学部の美術・工芸課程の人材養成と地域貢献の実績がある。本学部の特徴である少人数教育、広く複数分野のアートを学びつつ、専門性を深めるカリキュラム、そして「手わざ」を重視する教育などは、いずれも、美術・工芸課程から継承した教育の特長である。また、文化教育学部の国際文化課程と人間環境課程の一部の学問領域も本学部の基礎を成し、それによってより学際的な教育が可能となっている。

以上のような目的と学部創立の経緯を背景とし、本学部では、芸術の理論・技能はもちろんのこと、経済・経営、自然科学、工学などの芸術とは異なる分野領域の教育を行い、芸術を多角的に学ぶカリキュラムが編成されている。その結果、本学部には芸術表現や芸術理論の教員のみならず、博物館学、マーケティング、セラミック工学、美術資料保存論、考古学、都市地理学、都市デザイン、地域史・国際関係学、異文化コミュニケーション等を専門とする教員が配置されている。さらに、全学的な協力体制も構築し、他の学部（教育、経済、医、理工、農）や佐賀大学美術館等で開講されるさまざまな分野領域の科目を履修することも可能としている。

また、本学部では芸術を社会活動、経済活動、そして実際の生活の中で有効的に機能させる手法を身につけ、さまざまな職業に対応できる力を身につけることを目指す。

本学部は佐賀市本庄町に所在する本庄キャンパスと西松浦郡有田町に所在する有田キャンパスによって構成される。「有田キャンパス」は、他には類を見ない窯芸・セラミック分野の恵まれた施設・設備を有する。それに加え、同キャンパスは伝統的な地場産業である窯業の長い歴史をもつ有田町に所在するという類のない教育環境を誇る。窯芸・セラミック分野の専門科目のみならず、有田地域と協働し、地域創生の知識やスキルを学ぶ科目等をこのような有田キャンパスで開講することにより、同キャンパスの利点を学部全体の教育に十分に活かしたカリキュラム編成としていることも本学部の教育の大きな特長である。

（２）「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

＜必須記載項目１　学位授与方針＞

【基本的な記載事項】

・　公表された学位授与方針（別添資料 7503-i1-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目２　教育課程方針＞

【基本的な記載事項】

・　公表された教育課程方針（別添資料 7503-i2-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目３　教育課程の編成、授業科目の内容＞

【基本的な記載事項】

・　体系性が確認できる資料（別添資料 7503-i3-1～3）

・　自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7503-i3-4～6）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　21 世紀の大きな課題である「地域創生」という社会のニーズに応え、「アートを通して（使って）」それを実現する人材の育成が本学部設置の意図である。この目標を果たすために、教育課程の編成や授業の配置を考えている。具体的には、主体性、協調性、発想力、企画力などの特性の修得、芸術を多面的・総合的に捉える能力や技術の修得、そして地域の課題を発見し、それを解決に導く方法論の修得などを目的とし、協働型授業、実践型授業、アートマネジメントを学ぶ授業を学部必修科目としている。（「芸術表現基礎・地域デザイン基礎」「３年次コア科目」その他）。[3.1]

○　コースナンバリングによる体系性をもったカリキュラムをつくり、それによる履修指導を実施している。[3.1]

○　コースナンバリングによる体系性と水準の点検は、教務委員会が中心となり、複数の教員が定期的に行っている。2019 年度にはカリキュラムの改訂（2020 年度から実施）を行った際にも、コースナンバリングの体系性と水準に合わせて、科目の対象年次の見直しなどを行った。[3.1]

○　佐賀大学学士力とシラバスの内容の照合を定期的に実施し、問題がある場合は随時、加筆修正を行っている。それによって学士力を通じたカリキュラム編成を維持している。（別添資料 7503-i3-7 ）[3.1]

○　全学的取組である副専攻（サブスペシャルティ）に対応し、本学部教員の専門性を生かした教育を全学的に実施するために副専攻プログラム「芸術と社会」を 2019 年に立ち上げた。多様な芸術のあり方を学び、現代社会に生きるために必要な芸術に関する知識及び教養、芸術的な感性を身に付けること、芸術の視座から現代の社会について考えることのできる幅広い視野を獲得することを目的とし、実技・実習講義、アーティストとの対話など多様な教育方法を用いて、本学部の複数の教員（一部教育学部教員）で実施をしている。（別添資料 7503-i3-8～9）[3.1]

＜必須記載項目４　授業形態、学習指導法＞

【基本的な記載事項】

・　１年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7503-i4-1～2）

・　シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 7503-i4-3）

・　協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7503-i4-4）

・　インターンシップの実施状況が確認できる資料
（別添資料 7503-i4-5）（別添資料なし）
理由：2016 年度設置のため

・　指標番号５、９～10（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

◎授業形態

○　協働型授業・クロス型授業（10 単位）を１年次の必修とし（「「芸術表現基礎」「地域デザイン共通基礎」）、協調性、コミュニケーション能力、自主性、広い

視野によって問題を発見し、解決に導く能力を修得することを目指す。これらの必修科目の成果は毎年７～８月に佐賀大学美術館において「共通基礎成果発表展」として広く大学の内外に披露する。また、３年次のコア科目（６単位ないし４単位）も、この形態の授業としている。これによって、専門課程に分かれてからも２コースの学生たちが繋がりを保持し、互いの専門性を協働型授業に生かすことで、広い視野や知見を培うことを目指す。（別添資料 7503-i4-6～8）[4.1]

○　地域の課題発見とその解決のための方法論や実践について学ぶため、地域指向型、実践型の講義や演習を各年次に配置している。（「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」「アートマネジメント」「芸術文化・地域創生論」「地域創生フィールドワーク」「有田キャンパスプロジェクト」「陶磁器産業論」「地域マネジメント論」「Intercultural Communication and Art」「考古学実習」「デザイン実践セミナー」等）[4.1]

○　アートマーケティングやアートマネジメントに関わる知識やスキルを習得し、商品開発などにつなげる実践型授業を開講している（「デザイン発想論」「アートマーケティング」等）。これらの科目を地域デザインコースの学生のみならず、芸術表現コースの学生にも履修させることによって、アートをマネジメントできる表現者の育成も目指す。[4.2]

○　上述の授業の成果の一つとして、アートマーケティングゼミの学生たちの「九州ブランド総選挙、ベストビジネスプラン賞」受賞（2018 年）、「よ～うかんがえる合格ようかん」の商品化（2019 年）がある。[4.2]

○　佐賀大学美術館を活用した実践型授業を配置している。（「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」「博物館学内実習」「卒業研究」等）[4.1]

○　窯芸・セラミック分野において、国内最高水準の環境と設備を誇る有田キャンパスを、有田セラミック分野の学生のみならず、全学生が積極的に活用している。（芸術表現コースの１年次必修科目「芸術表現」等）[4.1]

○　実務家教員・実務家アドバイザーが担当・参画する授業を配置し、高度な実践的スキルや知識の修得を目指す（「知的財産権学」「地域創生フィールドワーク」「陶磁器特別演習」「メディアデザイン特別演習」等）[4.4]

◎学習指導法

○　学生の主体性や能動性を向上させるために、アクティブ・ラーニングを全教員が授業に導入している。これによって、教員は学生の学習進捗度や理解度を把握し、それを授業の計画や内容の修正に利用している。[4.1]

○　芸術表現コースの実技系科目と地域デザインコースの講義・実習の両方の科目

において、週複数回授業を導入している。[4.1]

＜必須記載項目５　履修指導、支援＞

【基本的な記載事項】

- 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7503-i5-1～3）
- 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7503-i5-4～6）
- 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7503-i5-7～8）
- 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7503-i5-9）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

◎履修指導、支援（学業）

○　学生の就学意欲を高めるために学業成績等優秀者に対し 2016 年度より学部長表彰を行っている（実績 2016 年度２名、2017 年度５名、2018 年度９名、2019 年度 13 名）。表彰を受けた学生の中には、この経験が大きなモチベーションとなり、表彰後も優秀な成績を修め、希望どおりの就職を果たした学生がいる。（別添資料 7503-i5-10）[5.1]

○　チューター制度を導入し、学生にはＬＰ（ラーニング・ポートフォリオ）の入力を義務付けている。学期ごとに行われるチューターによる学生の面談の時に、チューターは学生のＬＰをもとに成績及び学士力の達成状況確認と履修指導等を実施している。2016 年度以来、ＬＰの入力率は８割を超えている。[5.2]

○　全教員はオフィスアワーを設定し、学生が常に教員に相談をしたり、個別の指導を受けたりすることができる体制を整えている。[5.1]

○　2016 年度以来、年に２回の割合で「学習相談会」を実施している。この相談会では、チューターが成績不振の学生の保護者（保証人）と面談し、学生の学業等の支援に取り組んでいる。[5.1]

○　「デザイン実践セミナー」や「デザインプロジェクト演習」等の中で、実技系の学生に対してポートフォリオ作成の指導を行い、他者に対して自らの作品をよりよく伝える手法や表現を教授している。（別添資料 7503-i5-11 ）[5.2]

◎キャリア支援

○　2016 年度以来、キャリアセンターと連携し、毎年就職支援セミナーを実施している（2019 年度実績は、年間 32 回のプログラムを提供し、参加学生はのべ 500

名超）。また、デザインやインターネット広告業界で活躍する企業家、地域おこし・町づくりの仕事に携わる社会人、そして、博物館・美術館の学芸員など、本学部の学生のニーズに合わせた業界の現役社会人を招聘し、キャリア講演会を行っている。（別添資料 7503-i5-12 ）［5.3］

○　学生全員の就活カルテにより、定期的に学生の就職に対する意識調査を行っている。教員の就職支援指導に役立っており、今後の学部卒業生の就職率の向上に良い影響をもたらすものと推量される。（別添資料 7503-i5-13 ）［5.3］

○　就職活動関連資料の提供として、学生のリフレッシュスペースに就職関連の資料のための書庫を設置し、学生が自由に閲覧できるような環境をつくっている。［5.3］

○　学生の就職活動支援のためインターンシップを促進している。2019 年７月時点、23 名の学生がインターンシップを経験し、そのうち 13 名は複数回（２～77 回）のインターンシップを経験。また、2020 年３月実施のアンケートには、インターンシップを経験した 29 名の学生が回答しているが、それによれば、「インターンシップが就職活動等に役立ったか」の質問に対し、62 パーセントの学生が「とても役立った、まあ役立った」と回答している。ここからインターンシップがかなりの程度就職に有効であったことが窺える。（別添資料 7503-i5-14 ）［5.3］

○　有田キャンパス内にも就職に関する掲示、資料ブースの設置をし、学部主催のセミナーや講演会については、有田と本庄キャンパスを回線でつなぎ、有田キャンパスでも就職支援の環境を整えている。また、有田地区での学部主催のインターンシップを開催し、企業連携を図っている。［5.3］

○　2020 年３月実施のアンケート（回答者 56 名）によれば、就職・進路先に「とても満足、まあ満足」と答えた学生が 87.3 パーセントに上っている。［5.3］

＜必須記載項目６　成績評価＞

【基本的な記載事項】

・　成績評価基準（別添資料 7503-i6-1～2）
・　成績評価の分布表（別添資料 7503-i6-3）
・　学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7503-i6-4～5）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学

生に周知し、それに則った厳格な成績評価を実施している。複数の教員が担当する学部共通科目（「芸術表現共通基礎」「地域マネジメント共通基礎」、３年次コア科目、卒業研究等）においては、複数の教員による採点評価方法を導入している。また、学生の求めに応じ、成績評価の根拠資料の提示や説明を義務づけている。さらに、学習達成状況と成績評価を、シラバス点検を通じて確認している。（別添資料 7503-i6-6）[6.1]

○　ルーブリック評価を、「地理学フィールドワーク実習」、「古墳文化研究演習Ⅰ」「フィールドワーク実習」「考古学」「文化財の保存と活用」の科目で実施している。（別添資料 7503-i6-7）[6.1]

＜必須記載項目７　卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

・　卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7503-i7-1～3）

・　卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（別添資料 7503-i7-4～5）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　学生は３年次の１月に卒業研究のテーマを提出し、その後、指導教員から指導を受け、作品や論文を完成させる。学生が卒業研究に従事する間、教員はコース会議等を通じて、学生の研究の内容や進捗状況の報告を行い、他の教員と卒業研究に関する情報共有を行っている。地域デザインコースでは、それらの過程で副査を決定し、最終審査は主査と副査の２人体制で行っている。一方、芸術表現コースにおいては、分野の異なる複数の教員により最終審査を行う。それによって、多角的な視点による卒業研究の評価を可能としている。

地域デザインコースでは、学生は論文を主査と副査に提出後、「論文発表会」において質疑応答を受け、査読―発表という一連のプロセスの中で評価を受ける。

また、芸術表現コース（と地域デザインコースの一部）では、卒業研究を大学美術館や大学構内の各所で「卒業制作展」として発表し、制作―展示（プレゼンテーション）という一連のプロセスが総合的に評価の対象となる。以上のように、卒業研究とその判定の方法は、計画的かつ組織的に行われ、特に芸術表現コースの成績評価の方法は本学部の特色の一つとなっている。既に触れた「共通基礎成果発表展」の他にも、このように大学美術館を利用し、教育成果を広く公開して

いることは本学部の大きな特長の一つである。構内にある美術館における教育成果の発表を通し、学生は論文や作品をただ並べるのみならず、展示方法や展覧会のマネジメントについて実践的に学ぶこととなる。（別添資料 7503-i7-6）[7.1]

＜必須記載項目８　学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7503-i8-1）
- 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- 入学定員充足率（別添資料 7503-i8-2）
- 指標番号１～３、６～７（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2017 年度からＡＯ入試において、特色加点制度を導入している。９割以上の受験生が、特色加点の判定材料となる資料を提出し（一人につき３件まで）、その中身は学業、学外活動（ボランティア、海外研修等）、資格、受賞など多岐に亘っており、筆記試験だけでは測ることのできない受験生の多様な能力や経験を知る手掛かりとなっている。（別添資料 7503-i8-3）[8.1]

○　「継続・育成型」の高大連携事業として、2019 年度から県内高校生を対象に、アートの持つ多様性や社会とアートとの関連性等を学ぶ「アートへのとびら」というプログラムを開始した。これによって、本学部に対する県内高校生の理解や関心を高めるとともに、明確な目的意識や強い意欲をもった受験生の拡大を狙う。（別添資料 7503-i8-4）[8.1]

＜選択記載項目Ａ　教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7503-iA-1）
- 指標番号３、５（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　３年次のコア科目の一つである「国内外芸術研修」のうち「国外研修」では、芸術作品を生み出した歴史や環境に直に触れることで、歴史、芸術、政治などを実地で学ぶとともに、国際的な視野を広めたり、内外の事象を相対的に見たりす

る視点を培うことを目的としている。（2018 年度の研修先はイタリア及び韓国。2019 年度はアルメニア。参加学生は２年間で 28 名）。[A.1]

○　ヨーロッパの中でも優秀な人材を美術・デザイン界に輩出してきたブルク・ギービヒェンシュタイン芸術デザイン大学ハレ（以下、ハレ芸術デザイン大学）（独）及びアイントホーフェン・デザイン・アカデミー（蘭）と 2017 年に学術交流協定を締結し、両校からこれまで８名の留学生を受け入れている。それに伴い、留学生の受入れプログラムとして、本学の強みの一つである窯芸・セラミック分野に特化した「ＳＰＡＣＥ－ＡＲＩＴＡプログラム」（有田キャンパスで実施）を編成し、実施している。一方、本学部からはハレ芸術デザイン大学、ヴィータウタス・マグヌス大学、そして韓国国民大学校（いずれも学術交流協定校）にそれぞれ１名ずつの学生を派遣している（2018 年度から現在）。2020 年度には、アイントホーフェン・デザイン・アカデミーとヴィータウタス・マグヌス大学へそれぞれ１名の留学生を派遣した。以上のように、毎年コンスタントに留学生受入れと派遣を実施している。（別添資料 7503-iA-2）[A.1]

○　ヨーロッパの歴史ある美術館・博物館、そして、文化財関連の国際機関から学芸員や研究者を招聘し、レクチャーや実習を毎年行っている。（2016 年度～2019 年度）（別添資料 7503-iA-3）[A.1]

○　上述のヨーロッパの学術交流協定校２校及び韓国国民大学校において、本学部学生と教員が講演、ワークショップなどを行い、学術交流を積極的に行ってきた。（2017～2019 年度）（別添資料 7503-iA-4）[A.1]

○　ドイツとオランダの学術交流協定校や両国の美術・デザイン関連の場所を訪れる「海外交流実習」（全学科目）を 2017 年度から開講し、学生たちが異文化交流をしながら、美術やデザインについての見聞を広める機会を提供した（教養教育科目，担当は本学部教員）。本学部学生の参加人数は以下の通り。2017 年度 11 名、2018 年度８名、2019 年度４名。また、本実習の参加者の中から、これまでのところ３名がドイツとオランダの協定校へ留学（予定を含む）し、本実習が学生の留学意識の動機付けに繋がっていることが窺える。(別添資料 7503-iA-5)[A.1]

＜選択記載項目Ｂ　地域連携による教育活動＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　講師や助言者として、地域の自治体職員、地域のＮＰＯ法人職員を積極的に登用するカリキュラム編成となっている。３年次コア科目である「地域創生フィールドワーク」、「有田キャンパスプロジェクト」では、地域の自治体、ＮＰＯ、民間などの多様な主体と協働しながら各地において地域創生を狙いとしたアートプロジェクトを実践している。2018 年度、2019 年度に合計 16 件のプロジェクトの実績がある。（別添資料 7503-iB-1）[B.1]

写真　コア科目_地元の方を講師とした勉強会

○　芸術を通した地域創生人材の育成プログラムＳＭＡＡＲＴ（Saga Mobile Academy of Art）を 2017 年度から実施している（文化庁　大学における文化芸術推進事業）。同プログラムは、地域との連携を柱とし、理論と実践の両方からアートマネジメント人材の育成に取り組んでいるとともに、佐賀のアート情報の発信を行っている。（別添資料 7503-iB-2）[B.1]

○　有田キャンパスでは、有田及び肥前地区の窯元の青年部団体「陶交会」と陶磁器製品の研究会を行い、相互に意見交換し製品の開発と制作を行い、年度末に県立九州陶磁文化館において展示発表を行っている。また、有田町内の県道 4 号線沿道の展示ボックスに学生の優れた作品を展示し、地域の景観づくりに貢献している。（別添資料 7503-iB-3）[B.1]

○　佐賀県からの要請に応じ、空間演出「たまゆいのひかり～受け継ぎ芽吹く未来へ～」の制作を教育の一環として実践し、さが維新まつりにおいてその成果を発表した。[B.1]

写真　空間演出「たまゆいのひかり～受け継ぎ芽吹く未来へ～」

○　まちづくり活動において重要な視点は持続性である。芸術地域デザイン学部と佐賀県江北町商工会組織とは継続的な協働活動が実践されている。江北町商工会側の狙いは地域活性化、大学側の狙いは実践を通したリアルな学びにあり、互いに協力的立場で活動を行っている。[B.1]

写真　佐賀県江北町との協働　マルシェの制作と活用

○　それぞれの研究室活動においても地域と連携した教育の成果がみられる。先に触れた「よ～うかんがえる 合格ようかん」は小城羊羹の製造・販売を行っている有限会社桜月堂と佐賀大学芸術地域デザイン学部の学生が商品化したもので，商品パッケージには芸術地域デザイン学部内にてデザイン・コンペティションを開催し，23 作品の中から選ばれたものを採用している。[B.1]

写真　よ～うかんがえる　合格ようかん

○　芸術表現を実践している研究室では、教育の一環で制作した作品を展覧会などを主催して公開している。下記の写真は漆・木工を専門とする教員と学生による作品の展覧会の案内状である。[B. 1]

写真　うるし展の案内状

○　県内ＩＴ企業４社でつくる「次世代コンテンツ開発共同企業体」と芸術地域デザイン学部、佐賀市によるコンテンツ研究開発と実践教育を行う拠点「redeco（リデコ）」を 2019 年６月に創設し、学生が開発する各種のコンテンツ制作へのアドバイスや実際の案件に関わらせていくＯＪＴ型の人材育成、学内インターンシップ的役割などを今後行っていく。[B. 1]

写真　研究開発と実践教育を行う拠点「redeco(リデコ)」

＜選択記載項目Ｃ　教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　教員は自己点検評価を通じて、教育の質の保証と向上を図っている。さらに、ＦＤ委員会が中心となり、ＦＤ講演会を定期的に開催し（2017 年度から現在）、ＦＤに力を入れている。

また、ティーチング・ポートフォリオの導入については、簡易版の作成・更新率は 100％であり、標準版は作成率向上のため、教員の講習受講を計画的に進めている。　[C.1]

主な教育に関するＦＤ講演会

・教育改善を目指したティーチング・ポートフォリオの導入

・アクティブ・ラーニング

・教育実習の実際と課題

○　学生のＬＰ（ラーニング・ポートフォリオ）入力を義務付け、教員はそれによって学生の学士力の達成状況などを確認するとともに、学生の生活一般についても把し、学生に助言できる環境を構築している。［C.1］

＜選択記載項目Ｄ　学際的教育の推進＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　本学部のカリキュラムは、芸術系、人文系、社会科学系、そして自然科学系の学問分野を領域横断的に配した学際的なものとなっている。具体的には、本学部では、経済・経営、自然科学、工学などの分野領域を学びつつ、芸術の理論や技能を学ぶカリキュラムを編成している。このような独自の教育を行うために、本学部には芸術表現や芸術理論の教員のみならず、博物館学、マーケティング、流通論、セラミック工学、美術資料保存論、考古学、都市地理学、都市デザイン、地域史・国際関係学、異文化コミュニケーション等を専門とする教員を配置している。さらに、全学的な教育の協力体制も構築し、他学部（教育、経済、医、理工、農）や佐賀大学美術館等で開講される様々な分野領域の科目を履修することも可能としている。（別添資料 7503-iD-1～2）[D.1]

＜選択記載項目Ｅ　リカレント教育の推進＞

【基本的な記載事項】

・　リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 7503-iE-1）

・　指標番号２、４（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　有田キャンパスにおいて、「芸術教養公開講座」を 2017～2019 年にわたり計 26 回開講した。本学部の教員全員が座学と実習の両方によって、各自の専門分野（美術・工芸、セラミック、コンテンツデザイン、キュレーション、フィールドデザイン）について、芸術、地域おこし、町づくりなど多様な観点から一般の人たちにレクチャーした。高校生から 80 代までのべ 285 名が本講座を受講した。（別添資料 7503-iE-2）[E.1]

○　芸術を通した地域創生人材の育成プログラムＳＭＡＡＲＴ（Saga Mobile Academy of Art）を 2017～2019 年度に実施した。社会人・学生を対象に佐賀の地域資源（茶・陶磁器・菓子、偉人等）を踏まえた文化芸術事業の企画運営及び情

報発信について連続講座・見学等を行い、最終的には受講生自ら美術展及び文化情報サイトの企画運営実践に取り組んだ。３ヵ年あわせた受講者の延べ人数は209名（うち現職者127名）で、内訳は大学生、自治体職員、学校教員、会社員（観光・地域振興・メディア・福祉・銀行ほか）、自営業、フリーランス、主婦等である。[E.1]

○　全国芸術系大学コンソーシアムのメンバーとして、「芸術系教科等担当教員等研修会地区ブロック研修会」を担当し、中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の教員を対象に「鑑賞、素描、映像メディア表現における授業展開を考える」を実施。九州各地より11名の教員が受講した。（別添資料7503-iE-3）[E.1]

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

＜必須記載項目１　卒業（修了）率、資格取得等＞

【基本的な記載事項】

- 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7503-ii1-1）
- 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7503-ii1-1）（再掲）
- 指標番号 14～20（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2020 年３月に本学部第１期生が卒業を迎えた。４年生在籍者は 115 名、そのうち卒業資格者は 102 名で、卒業率は 88.7 パーセント。留年者の内訳は、休学者３名、査定要件不足者が 10 名である。[1.1]

○　2020 年３月卒業生のうち、学芸員資格取得予定者 19 名、高校美術教員免許取得予定者 12 名、高校工芸教員免許取得予定者 22 名、中学美術教員免許取得予定者 14 名である。[1.2]

＜必須記載項目２　就職、進学＞

【基本的な記載事項】

- 指標番号 21～24（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2016 年度の学部創設以来、2020 年３月には最初の卒業生を送り出すこととなった。卒業予定者の就職内定率は、96.0 パーセント（内定率Ａ）、81.8 パーセント（内定率Ｂ）＜いずれも 2020 年４月現在＞。就職先（業種）の内訳は、一般企業、公務員、作家など多岐にわたっている。また、芸術表現コースの卒業予定者に、自営（作家）がいることも本学部の特徴である。

就職先のうち、一般企業では、広告代理店、インターネット広告会社、企画・デザイン会社、ＣＭ制作会社など、デザイン、広告、映像関係が目立つ。地域創生、文化財の保護・活用に関わる仕事を希望する学生は、公務員となった者が多い。また、大学院進学者には、作家や学芸員・キュレーター志望の学生が比較的多い。[2.1]

＜就職先一覧＞

１　一般企業

株式会社電通九州、日本テレビアックスオン、ＪＲ九州エイジェンシー、

株式会社レベルファイブ、株式会社　良品計画　（無印良品）、株式会社再春館製薬所、株式会社ＣＹＧＡＭＥＳ　サイゲームス、株式会社ティー・ワイ・オー、その他。

２　公務員（自治体、省庁）

朝倉市役所、小城市役所、柳川市役所、神埼市役所、佐賀県庁、防衛省九州防衛局、九州管区行政評価局

３　進学

東京藝術大学大学院、鹿児島大学大学院、佐賀大学大学院

４　自営（作家）

５　その他

○　佐賀県内への就職状況については，本学部学生の県内出身者の割合は 15%、一方、2020 年４月現在の県内就職予定者は 14.7%であり，出身比率と同じ程度の比率で県内就職が決まっている。県内就職先としては、佐賀県庁、小城市役所、神埼市役所、佐賀共栄銀行、株式会社サイゲームス、佐賀県と有田町が企業誘致を行った株式会社ＬＩＧＨＴｚ等である。[2.1]

＜選択記載項目Ａ　卒業（修了）時の学生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

・　学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 7503-iiA-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2016 年度の学部創設以来、2020 年３月に最初の卒業生を送り出すこととなった。卒業時の学生への学修成果アンケートで 56 人から回答があった。大学生活全般を総合的に判断して 50%がとても満足している、46.4%がまあ満足していると 96.4%の卒業生が満足との回答であり、本学部が第 1 期生に注いだ努力が伝わったと結果と捉えている。他の項目についてもこれから分析を行い、今後の学修内容に活かしていくこととしている。[A.1]

【参考】データ分析集　指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数（常勤、常勤以外別）	職員総数（常勤）／本務教員総数 職員総数（常勤以外）／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1．5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1．5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※　　部分の指標（指標番号８、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※　　部分の指標（指標 11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。